

2016年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2016年1月20日

会社名 株式会社果実堂 上場取引所 【公開準備中】
 コード番号 【公開準備中】 URL http://www.kajitsudo.com/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 井出 剛
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部本部長 (氏名) 望月 俊治 (TEL) 096(289)8883
 四半期報告書提出予定日 — 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(表示単位未満切捨て)

1. 2016年3月期第3四半期の連結業績(2015年4月1日~2015年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%
2016年3月期第3四半期	869,323	27.3	18,326	192.7	33,142	1,064.7	19,548	3,634.3
2015年3月期第3四半期	682,635	19.6	6,260	△56.2	2,845	△78.6	523	△95.1

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2016年3月期第3四半期	1,017.00	—
2015年3月期第3四半期	27.84	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	千円	千円	%
2016年3月期第3四半期	789,944	207,116	22.6
2015年3月期	702,540	114,731	16.3

(参考) 自己資本 2016年3月期第3四半期 178,906千円 2015年3月期 114,731千円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2015年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2016年3月期	—	0.00	—	—	—
2016年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2016年3月期の連結業績予想(2015年4月1日~2016年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	円 銭
通期	1,256,265	31.2	30,043	64.4	42,204	198.4	35,731	223.4	1,856.25

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規3社 ベジタブル製薬株式会社
株式会社果実堂ファーム
うれしの農園株式会社

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2016年3月期3Q	19,333株	2015年3月期	18,806株
② 期末自己株式数	2016年3月期3Q	0株	2015年3月期	0株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2016年3月期3Q	19,222株	2015年3月期3Q	18,806株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外です。また、当社は有価証券報告書の提出会社ではないため、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は実施されません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により予想数値と大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

なお、2015年5月29日付で転換社債型新株予約権付社債の転換が実施され、発行済株式総数が527株増加しております。2016年3月期の業績予想の1株当たり当期純利益の金額には、当該株式数の変動による影響を反映しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	6
(3) 四半期連結株主資本等変動計算書	7
(4) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(5) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2015年4月1日～12月31日）は、梅雨期・盛夏期・台風期という時期を過ぎ、収量が回復・増大する時期であります。しかしながら、本年度第3四半期においては特に11月、12月は寒気の流れ込みが弱く、一方で南からの暖かく湿った気流の影響を受けて全体的に気温が高く降水量も増加したため、例年と比較しベビーリーフの品質維持に手間がかかりましたが、台風被害からの急回復を図る期間ともなりました。

このような状況の中、当社の主力事業であるベビーリーフ事業では、台風15号の影響により、9月のベビーリーフの出荷量は23トンと8月と比較しても約25%の落ち込みとなりましたが、10月には43トンと急回復となり売上高も10月としては当社事業開始以来最高を記録致しました。

急回復の達成は、栽培技術の向上や原価低減活動の進展による生産量や利益率の向上の影響も大ありますが、2012年7月「九州北部豪雨」による出荷調整の際と異なり、顧客との関係構築が進んだこと、生産量が倍増したことにより当社のサプライヤーとしての存在感が高まったこと、品質向上に向けた取り組みが取引先からも評価されたこと等により、出荷再開と同時に被災前を上回るペースの発注を頂きましたことも大きな要因であります。

最も需要が増大するクリスマスシーズンには、通常1日2万数千パックを生産するところ、創業以来最大となる4万パック以上の生産を行い、生産能力をフル活用して増加する需要に対応しており、生産力のさらなる向上を図ることにより一段の販売増が期待できる状況となっております。

将来展開の一環といたしましては、当社が設計・開発した低コスト環境制御型ハウス「高瀬式14回転ハウス」の実証試験棟2棟では、農場生産性の指標である単位面積当たりの収量（単収）・回転数ともに効果が検証されており、一部作業の自動化により労働生産性も向上しております。さらに先般の台風15号（最大風速35メートル超）でも無傷で生産・出荷を継続できたことから耐風圧性能についても証明されました。このため、当社における最重要投資案件と位置づけ、新たに14棟（0.7ヘクタール）の建設を行い、第4四半期に完成、稼働の見込みとなっております。

なお、当社はベビーリーフ生産の機械化、IT化に向けた設備投資及び研究開発投資を推進し、ベビーリーフ年間1,000トンを実現するため、11月16日付で株式会社北九州銀行と資本提携を行いました。

この結果、当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の売上高は、前期比27.3%増の869,323千円、営業利益は前期比192.7%増の18,326千円、経常利益は前期比1,064.7%増の33,142千円、親会社株主に帰属する四半期純利益は19,548千円（前期の四半期純利益は523千円）となりました。

セグメント別の業績の概況は、次のとおりであります。

[ベビーリーフ事業]

ベビーリーフ事業においては、売上高は前年同期比 15.5%増の 748,182 千円、セグメント利益は前年同期比 30.2%増の 125,7368 千円（セグメント利益率 16.8%）となりました。

台風 15 号の影響を受けながらも過去最高のセグメント利益を確保しました。

なお、当社のベビーリーフ事業における収益構造の特徴として下期に業績が偏重する傾向がありますが、これは農場で栽培中のベビーリーフを期末時点における生育段階及び単位面積当たりの収量（単収）に応じて仕掛品として在庫評価するため、期首期末の在庫金額の増減が損益に大きく影響（*）することが主な要因であります。当第3四半期累計期間におきましては、資金支出を伴わない会計上の費用として 12,579 千円を認識しております。

(*仕掛品増減の損益に対する影響について)

例年夏場は栽培日数が短くなる一方で単収が低く、冬場は栽培日数が長くなる一方で単収が高くなることから、当社の仕掛品残高は期初から夏場にかけて大きく在庫金額が目減り（製造原価が資金支出を伴わずに増加することで利益率が低下）し、厳夏期に底打ち・反転すると、秋から冬にかけて在庫金額が上昇（製造原価が資金収入を伴わずに減少することで利益率が上昇）するという周期的変動が見られます。在庫金額は一年を通して概ねプラスマイナス 10,000 千円～15,000 千円の幅で周期的に変動しております。

[発芽大豆事業]

発芽大豆事業においては、売上高は前年同期比 243.1%増の 120,518 千円、セグメント損失は 11,026 千円（前事業年度は 19,343 千円の損失）となりました。

当社の最大の取引先であるコストコ・ホールセール・ジャパンにおいて積極的な催事展開が功を奏し、サラダ用発芽大豆が浸透し売上高が急伸びました。また、特許技術により大豆イソフラボンの含有量を高めた大豆を原料に用いた機能性豆腐「発芽の恩恵」が関西の「いかりスーパーマーケット」に続き、東京を拠点とする高級スーパー「紀ノ国屋」でも発売開始されるなど、原材料販売も広がりを見せました。一方、課題となっている利益率確保に向けて、製造委託先及び仕入先との価格交渉や物流の見直し等を行い、一定の成果は得られましたが、本格的な収益改善には時間を要しており、夏季のベビーリーフ事業を補完するには至りませんでした。さらなる販路拡大に向けて、コストコに対してはサラダ用発芽大豆に加えてデリカ商品の提案も進めております。

[発芽研究事業]

発芽研究事業においては、研究開発活動を推進し、売上高は 622 千円、セグメント損失は 18,084 千円（前事業年度は 10,541 千円の損失）となりました。

8 月には発芽技術の特許「発芽処理植物種子の製造方法、発芽誘導用原料種子の製造方法、発芽処理植物種子の抽出組成物、及び、スクリーニング方法」が権利化（特許第 5795676 号）し、当社が有する特許は 3 件となりました。植物由来の医薬品及び医薬品原料（ボタニカル・ファーマシューティカル）の開発にかかわる基本特許と位置づけ、国際特許出願も検討しております。また、この技術をもとに負荷を与えた発芽大豆からグリセオリンの単離精製に成功しており、研究試薬の開発に向けて前進しております。

なお、当社は、独自技術の特許化及び大学との共同研究の進捗を踏まえ、2015 年 12 月 1 日に、発芽大豆の製造事業及び発芽研究事業を会社分割により分社化し、ベジタブル製薬株式会社を設立いたしました。この分社化により、研究成果の事業化、研究開発体制の大規模化、迅速化、効率化を推進してまいります。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期連結累計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ87,403千円(12.4%)増加し、789,944千円となりました。これは主に、有形固定資産の増加86,841千円、投資その他の資産の減少1,896千円、現金及び預金の減少44,470千円、売掛金の増加20,192千円、仕掛品の増加12,561千円によるものです。

負債は、前事業年度末に比べ4,982千円(0.9%)減少し、582,827千円となりました。これは主に、長期借入金の増加5,671千円、賞与引当金の減少2,870千円、1年内返済予定の長期借入金の増加4,404千円、未払消費税等の減少12,232千円、転換社債型新株予約権付社債の転換による減少44,795千円によるものです。

純資産は、前事業年度末に比べ92,385千円増加し、207,116千円となりました。これは主に、転換社債型新株予約権付社債の転換による増加44,795千円、四半期純利益の計上19,548千円によるものです。

この結果、自己資本比率は22.6%、1株当たり純資産は9,253円94銭となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は308,846千円となり、前事業年度末に比べ73,470千円減少いたしました。各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、22,485千円の純収入となりました。この主要因は、減価償却費が30,032千円となったこと、税金等調整前四半期純利益が18,966千円となったこと、仕入債務が3,706千円増加したこと（以上、キャッシュの純収入）、売上債権が20,192千円増加したこと、たな卸資産が14,522千円増加したこと、未払消費税等が12,232千円減少したこと、賞与引当金が2,870千円減少したこと（以上、キャッシュの純支出）、支払利息で8,523千円、法人税等の支払いにより3,376千円を支出したことによります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、114,156千円の純支出となりました。この主要因は、「高瀬式14回転ハウス」（構築物）等の固定資産の取得により71,938千円を支出したこと、連結子会社の㈱果実堂ファーム（農業生産法人）による農地取得資金として11,041千円を貸付により支出したこと、定期預金の増加により29,000千円を支出したことによります。

なお、連結子会社㈱果実堂ファームへの11,041千円の貸付は、連結会計への移行により、第三四半期末の連結貸借対照表においては有形固定資産の土地として表示がされております。

財務活動によるキャッシュ・フローは、18,116千円の純収入となりました。この主要因は、長期借入により100,000千円の収入、長期借入金の返済により89,925千円（うち、株式公開準備に伴う個人保証付融資の期日前一括返済40,004千円）を支出したこと、連結子会社うれしの農園株式会社の設立に伴う非支配株主からの出資の受入れ10,000千円によります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

最新の業績動向を踏まえ、2015年5月19日に発表した2016年3月期の通期の業績予想につきましては、2015年10月21日に、「3. 2016年3月期の業績予想」に記載した数値へ修正しております。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前事業年度 (2015年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2015年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	383,316	338,846
売掛金	114,232	134,424
商品及び製品	3,842	2,652
仕掛品	18,483	31,045
原材料及び貯蔵品	14,926	18,078
その他	8,145	18,632
貸倒引当金	△630	△750
流動資産合計	542,317	542,928
固定資産		
有形固定資産	145,685	232,526
無形固定資産	4,460	6,308
投資その他の資産	10,076	8,180
固定資産合計	160,222	247,015
資産合計	702,540	789,944
負債の部		
流動負債		
買掛金	56,414	60,121
1年内返済予定の長期借入金	67,217	71,621
未払法人税等	3,376	747
未払消費税等	15,628	3,395
賞与引当金	9,266	6,396
災害損失引当金	—	6,540
その他	45,304	74,384
流動負債合計	197,208	223,206
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	80,065	35,270
長期借入金	294,008	299,679
資産除去債務	9,802	12,605
その他	6,724	12,065
固定負債合計	390,600	359,620
負債合計	587,809	582,827
純資産の部		
株主資本		
資本金	75,000	97,397
資本剰余金	30,000	52,397
利益剰余金	9,731	29,111
株主資本合計	114,731	178,906
非支配株主持分	—	28,210
純資産合計	114,731	207,116
負債純資産合計	702,540	789,944

(2) 四半期連結損益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2014年4月1日 至2014年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2015年4月1日 至2015年12月31日)
売上高	682,635	869,323
売上原価	478,226	595,620
売上総利益	204,409	273,703
販売費及び一般管理費	198,148	255,377
営業利益	6,260	18,326
営業外収益		
受取利息	32	101
受取配当金	2	2
補助金収入	3,866	23,395
その他	980	1,368
営業外収益合計	4,881	24,868
営業外費用		
支払利息	5,253	6,010
社債利息	3,016	1,684
持分法による投資損失	—	921
その他	26	1,435
営業外費用合計	8,296	10,052
経常利益	2,845	33,142
特別利益		
固定資産売却益	210	—
特別利益合計	210	—
特別損失		
台風15号災害損失	—	14,129
固定資産除却損	—	46
特別損失合計	—	14,175
税引前四半期純利益	3,055	18,966
法人税、住民税及び事業税	2,532	747
法人税等調整額	—	752
法人税等合計	2,532	1,500
四半期純利益	523	17,466
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	△2,081
親会社株主に帰属する四半期純利益	—	19,548

（3）四半期連結株主資本等変動計算書

（単位：千円）

	前第3四半連結期累計期間 （自 2014年4月1日 至 2014年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2015年4月1日 至 2015年12月31日）
株主資本		
資本金		
当期首残高	75,000	75,000
当期変動額		
転換社債型新株予約権付社債の転換	—	22,397
当期変動額合計	—	22,397
当期末残高	75,000	97,397
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	65,000	30,000
当期変動額		
転換社債型新株予約権付社債の転換	—	22,397
資本準備金の取崩し	△35,000	—
当期変動額合計	△35,000	22,397
当期末残高	30,000	52,397
その他資本剰余金		
当期首残高	—	—
当期変動額		
資本準備金の取崩し	35,000	—
欠損填補	△35,000	—
当期変動額合計	—	—
当期末残高	—	—
資本剰余金合計		
当期首残高	65,000	30,000
当期変動額		
転換社債型新株予約権付社債の転換	—	22,397
欠損填補	△35,000	—
当期変動額合計	△35,000	22,397
当期末残高	30,000	52,397
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金		
当期首残高	△36,316	9,562
当期変動額		
欠損填補	35,000	—
四半期純利益	523	19,548
当期変動額合計	35,523	19,548
当期末残高	△793	29,111

（単位：千円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2014年4月1日 至 2014年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2015年4月1日 至 2015年12月31日）
利益剰余金合計		
当期首残高	△36,316	9,562
当期変動額		
欠損填補	35,000	—
四半期純利益	523	19,548
当期変動額合計	35,523	19,548
当期末残高	△793	29,111
株主資本合計		
当期首残高	103,683	114,562
当期変動額		
転換社債型新株予約権付社債の転換	—	44,795
四半期純利益	523	19,548
当期変動額合計	523	64,343
当期末残高	104,206	178,906
非支配株主持分		
当期首残高		—
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）		28,210
当期変動額合計	—	28,210
当期末残高	—	28,210
純資産合計		
当期首残高	103,683	114,562
当期変動額		
転換社債型新株予約権付社債の転換	—	44,795
四半期純利益	523	19,548
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	—	28,210
当期変動額合計	523	92,554
当期末残高	104,206	207,116

(4) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2014年4月1日 至 2014年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	3,055	18,966
減価償却費	17,982	30,032
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	320	90
賞与引当金の増減額 (△は減少)	90	△2,870
受取利息及び受取配当金	△34	△104
支払利息	5,253	6,010
社債利息	3,016	1,684
台風災害損失	—	11,148
有形固定資産売却益	△210	—
有形固定資産除却損	—	46
売上債権の増減額 (△は増加)	△38,089	△20,192
たな卸資産の増減額 (△は増加)	3,293	△14,522
仕入債務の増減額 (△は減少)	18,552	3,706
未払消費税等の増減額 (△は減少)	1,406	△12,232
その他	5,807	12,517
小計	20,444	34,281
利息及び配当金の受取額	34	104
利息の支払額	△7,082	△8,523
法人税等の支払額	△3,376	△3,376
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,020	22,485
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	600	△31,400
定期預金の払戻による収入	—	2,400
有形固定資産の取得による支出	△56,684	△71,938
有形固定資産の売却による収入	210	—
無形固定資産の取得による支出	△4,166	△2,381
長期貸付けによる支出	—	△11,041
貸付金の回収による収入	—	205
その他	△20	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△48,855	△114,156
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△90,000	—
長期借入れによる収入	359,000	100,000
長期借入金の返済による支出	△84,952	△89,925
割賦未払金の支払による支出	△947	△682
リース債務の返済による支出	△462	△1,276
株式の発行による収入	—	10,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	182,637	18,116
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	132,596	△73,554
現金及び現金同等物の期首残高	262,616	382,316
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	84
現金及び現金同等物の四半期末残高	395,213	308,846

(5) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

2015年5月29日に第1回無担保転換社債型新株予約権付社債の新株予約権の一部について権利行使がありました。

- (1) 発行した株式の種類及び株式数 普通株式 527株 (増加後発行済株式総数: 19,333株)
- (2) 行使新株予約権個数 17個
- (3) 増加した資本金の額 22,397,500円 (増加後資本金の額 : 97,397,500円)
- (4) 増加した資本準備金の額 22,397,500円 (増加後資本準備金の額 : 52,397,500円)

(セグメント情報等)

前第3四半期連結累計期間(自 2014年4月1日 至 2014年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	ベビーリーフ 事業	発芽大豆事業	発芽研究事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	647,508	35,126	—	682,635	—	682,635
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	647,508	35,126	—	682,635	—	682,635
セグメント利益又は損失(△)	96,543	△19,343	△10,541	66,658	△60,397	6,260

- (注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額60,397千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない全社共通費用及び当社の管理部門に係る費用であります。
- 2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2015年4月1日 至 2015年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	ベビーリーフ 事業	発芽大豆事業	発芽研究事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	748,182	120,518	622	869,323	—	869,323
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	748,182	120,518	622	869,323	—	869,323
セグメント利益又は損失(△)	125,736	△11,026	△18,084	96,626	△78,299	18,326

- (注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額78,299千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない全社共通費用及び当社の管理部門に係る費用であります。
- 2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。